

あぜが 議会だより

第135号 令和7年7月26日



注目!

どうなる国境離島新法!?

国に陳情!! ... 2

有人国境離島法の継続と

支援拡充などを求め

国に陳情！！



県選出の全国会議員に陳情！

5月28日、議員7名と議会事務局長の計8名で、東京へ陳情に行きました。目的は以下の3点です。

①有人国境離島法の延長及び拡充。

②宇久町の風力発電事業建設による景観への影響で、野崎島の世界遺産登録抹消となる可能性を否定できないため、国に対し建設工事の再調査を求める。

③DX推進により膨大となる予算の支援。

まず、①の有人国境離島法の延長と拡充については、現行法は令和8年3月31日までの期限立法であり、万が一にも延長されなければ、船賃、運送費、事業や雇用拡大の支援等、私達島民の生活に直結する、まさに死活問題です。

私達小値賀町議会としては、延長は元より、更なる支援拡充

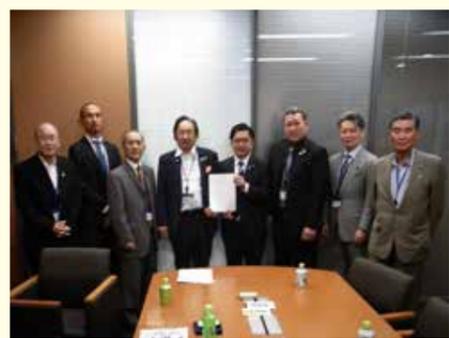
③のDXについては今年度予算において、システムの導入にかかる費用が約1億円、システムの利用料が約3300万円、合計1億3300万円と非常に高額な予算となっています。しかも、利用料は毎年払わなくてはなりません。

国主導の事業にも関わらず、4600万円程しか補助がなく、残りの全てを一般財源で賄っています。

これが数年おきに更新するとなれば、間違いなく本町はDX破産してしまいます。

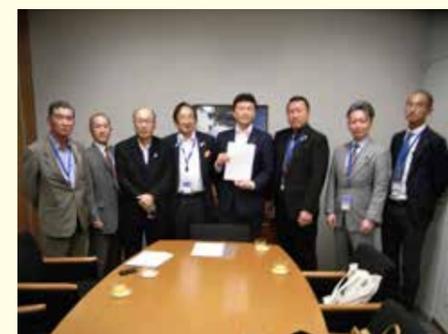
そこで今回、国からの補助の増額を求めたのです。

当件に関しては、国会議員だけでなく、デジタル庁にも直接支援を訴えて来ました。



金子 容三衆議院議員と

を求め、町民の皆さんが日頃より感じている高い船賃の低廉化に繋がりたいと考えています。



古賀 友一郎参議院議員と

②の宇久町の風力発電事業も非常に気掛かりです。

万が一、野崎島が世界遺産登録抹消となれば、小値賀の観光に大きな影を落とす事は火を見るよりも明らかです。

何としてもそれだけは阻止しなければならぬと考え、その想いを訴えてきました。

他の自治体の事業である為、私達にできる事は限られますが、引き続き訴えていきます。



山本 啓介参議院議員と



デジタル庁にて

陳情の合間合間で、有人国境離島法や消費税に関する勉強がありました。

経験の浅い議員が多く、大変勉強になりました。

講師の先生方には、大変お忙しい中ご教示いただき心より感謝しております。

前期2年の任期を終えて



前委員
江川春朝

開催回数
29回

【総務文教厚生】
本委員会の1年目は主に少子化対策に注力しました。岡山県奈義町と北海道沼田町へ2班に分かれて視察に行き、そこでの各委員の学びが本町の子育て支援の更なる充実につながっていると感じます。2年目は主に高校存続対策に注力し、南北海道にある福島町の道立福島商業高校の生徒寮を視察しました。寮の計画から完成に至るまでの苦労や喜びなど当事者から詳細な説明を受け、また補助金対策や寮の管理運営状況など、現地を訪れないと得られないであろう非常に有益な情報を得ることができました。子どもたちが自宅から遠く離れた土地の高校の寮に入る理由なども含め、北松西高校の存続に寄与できる知識と意識が各委員の身につきました。2年間、小さな問題からとても大きな課題まで委員会として取り組んできましたが、事業執行に当たり委員会の意思を尊重していただいた事業や、方向性を柔軟に対応していただいた事業もあるなど、本委員会の存在意義を強く感じました。



前副委員長
橋本武士

開催回数
16回

【産業建設】
本委員会では、1年目は主として商店街の活性化対策に取り組み、令和5年11月に宮崎県日南市の油津商店街を視察しました。ここではIT関連企業の誘致による定住人口および交流人口の増加に伴い、商店街の活性化が図られており、本町の商店街活性化施策の参考となりました。2年目は主にごみ処理に係る課題に取り組み、令和6年11月に海洋漂着ごみの量が日本一と言われ長崎県対馬市を視察しました。ここにはごみの再資源・販売化やアート作品の創出・販売を行っている民間事業者があり、漂着ごみ問題に対する前向きな取り組みが行われており、本町としてもとても参考になりました。令和7年1月には、ごみを焼却せず高温で熱分解処理している愛知県常滑市の企業を執行部とともに視察しました。この技術はごみを燃やさないため脱炭素に効果的であり、金属と炭と油以外は全て水蒸気で放出される理想的な技術であるとのこと、本町での導入に向けた研究の必要性を強く感じました。



前委員長
森岡正雄

開催回数
39回

【広報】
この2年間、小値賀町議会だよりを「見やすく、読みやすく、分かりやすく」をモットーにして誌面づくりに励みました。工夫した点として、まず誌面のばらつきを抑えるため穴あきからホッチキス留めに変えました。また積極的にQRコードを使ってYouTubeへ誘導、タイトルや見出しのフォントをインパクトのあるものにし読者の目を惹きつけるようにしました。特に手応えを感じたのは、令和6年7月20日発行の一般質問で採用した見開きの誌面構成です。以前は議員の写真が小さく、文字が多くて読者の読む意欲を阻害していましたが、写真を2ページ全体に広げ、議場を背景に使うことで臨場感を高め、視覚に訴える誌面にしました。この手法は全国的に見ても本町だけで、各地で広報研修を務めている講師に「他の研修でも紹介したい」と言われたことは大きな自信となりました。最後に、取材や撮影にご理解とご協力をいただいた町民の皆さん、関係各所の皆さんに心より感謝申し上げます。

常任委員会の構成が変わりました！

全国的には常任委員会の任期は4年が通例ですが、本町では任期は2年です。

産業建設 常任委員会 産業振興課、建設課、農業委員会に関する事務を所管します。



地域産業振興やインフラ整備に全力で取り組む決意です。住民の皆さんの声を大切にしながら進めていきます。

議会運営 委員会 議会を円滑に運営するため、議会のルールや会議日程等を決定します。



議会に関するルールなどに対し、よく話し合い、改善すべきは改善し、円滑な議会運営に努めます。2年間勉強しながら頑張ります。

総務文教厚生 常任委員会 総務や福祉等の町の基本運営と他に属さない事務を所管します。



特に教育、福祉、移住の3本柱を中心に、さまざまな課題の解決に尽力し、町民の皆さんの望む小値賀町を目指したいと思っております。

広報常任委員会 議会の広報に関する事務を所管します。



議会を今まで以上に身近に感じていただけるよう、楽しく学びある、つい読みたくなる誌面づくりに励みます。

議会事務局 議会を通じて町民へのサービスを行う縁の下の力持ち的存在です



山田 事務局長 岩坪 書記

これから町の発展に寄与するべく小値賀町議会の運営を支え、議員の仕事をサポートすることを心掛けながら職務に精励し、全力をつくしたいと思っています。今後とも皆様のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。(山田)

町民の代表者である「小値賀町議会」が、町民の皆様のためによりよい活動ができるよう、裏方に徹しながら自己研鑽に努めたいと思っております。「開かれた議会」としたいので、3階の窓口、電話、メール等で皆様のいろいろなお話をお聞かせください。(岩坪)

定例六月会議ッ!

令和7年6月18日～19日まで



と会 議語ろう会

小値賀町議会は、「町民とともに歩む議会」を議会基本条例で定め、その一環として、町内の各種団体、NPO等との意見交換の場である「議会と語ろう会」を開催しています。



商工会

人手が足りない!

●募集しても人は来ない。高齢化が進み、後継者不足ではなく、いないのが現状。人手も観光も、五島市の大きい市場に取られている。本町は市場が限られた中での利用にはなるが、やはり、観光産業を確実に伸ばしてほしい。

値上げしづらい!

物価高騰の影響

●産業分野に対する物流への補助はあるが、商工業者の仕入れ運賃には、何も補助がない。食料品や生活必需品の仕入れ運賃に補助があれば、幅広く多くの町民へその恩恵が行き渡る。

●米価格の高騰を筆頭に、旅館、飲食店は食材等の仕入れコスト上昇分を価格転嫁しづらく、利益がひっ迫している。

●釣りのイベントや、YouTuberさんのお蔭で、最近の観光客数は増加傾向に感じる。

町内向けのイベントばかりではなく、町外からのお客さん呼び込むイベントを開催したほうが良いが、島外の方の運賃が高すぎる。これは観光客増加の足かせだ。

今後はもっと交流人口の増加に繋がる取り組みを行って欲しい。

多種多様で貴重な御意見、ありがとうございます。本町の商工業を未来へ繋げる為、議会が実情を受け止め、今後のまちづくりへ活かし、問題課題解決へ向け、しっかり取り組みらせて頂きます。

一般質問5人、報告5件、議案7件 町営住宅を町有にし、住宅不足解消へ!

夜間議会では 多数の傍聴者が!

初日の夜間議会では、多くの傍聴者が訪れる中、町長の行政報告の後、江川議員、森岡議員の一般質問がありました。(一般質問の詳細はP12～21に掲載しています)
たくさんの方の傍聴ありがとうございます!

住宅不足解消は 優先課題のひとつ!

2日目は、小辻議員、今田議員、立石議員の一般質問から始まりました。
昨日に引き続き、多くの傍聴人が訪れており、一般質問後の模擬公聴会でも多数の意見がありました。
頂いたご意見を町政へ反映できるように議員一同尽力したいと思っておりますので、これからも忌憚らないご意見お待ちしております!

一般質問後、小値賀町税条例、及び小値賀町国民健康保険税の改正、令和6年度一般会計明許費繰越計算書、令和6年度下水道事業会計予算繰越計算書、一般会計継続費繰越計算書の報告がありました。

その後、議案7件を審議。議案47号は住宅関連のもので、これまで町営住宅だった水の下団地を町有住宅にして改修します。所得制限がなくなると家賃が下がり、より多くの町民が利用できるようになります。

住宅の確保は本町の優先課題のひとつであり、ありとあらゆる施策で住宅の確保に努めなくてはなりません。

空き家バンク等もそうした取り組みの一環ですので、小値賀存続のために、これからも町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

その後、小値賀町国民健康保険税の一部改正、一般会計補正予算、工事請負契約の変更、小値賀町監査委員選任の同意について話し合わせ、全て可決成立しています。

値賀の里



現場の大変厳しい状況を共有して頂きました

●日本中が介護職の人手不足であるが、その中でも離島である本町、養寿園などは、看護・介護人材不足が深刻だ。

そんな中、町外や外国の方を職員に迎える為に、寮があって本当に良かった。しかし、町外よりお越しの実習生や看護師は、期限付きの為に、特に看護師は、次の方が見つかるまで、無理を言って期間を伸ばしてもらうなどして、ギリギリの綱渡り状態である。町もサポートして欲しい。

●職員の中には70歳を超える方も頑張っている。職員自体の高齢化も同時進行だ。業務改革や、ICT化も図り、自力でやれることは全て取り組んだが、もう限界に近い。

状況はギリギリ綱渡り

●寝たきりではなく、身体は動くが目を離すことができない利用者が増加傾向であり、ベッドは空いているも、対応する人手が一杯一杯の為に、受け入れたくても出来ないのが現状だ。

そんな中、限られたギリギリの人数で、夜勤も頑張っている。

●精神的にもダメージの残る「看取り」の回数も年々増え、それでも職員のモチベーションが保たれているのは、「小値賀で生まれ育った先輩方を、小値賀で最期を迎えさせてあげたい」という志しの気持ち。

そして利用者やそのご家族の方からの、職員に対する「ありがとう」という感謝の言葉が何よりの宝と感じている。

町全体の介護を考えた時、本町唯一の特別養護老人ホームであり、「最後の砦」の存在である。誰かが投げ出したくなるような業務を、毎日笑顔でこなす最高にカッコいい職業、介護! 町も、民間だから、ではなく、公的要素を踏まえしっかりサポートするべきです。

特集！ 旧小西家住宅

町全体の公共施設の老朽化が進み、人口減少も歯止めが効かない中、公共施設の棚卸が急務となっています。島外アーティストによる展示会場として年一回程度利用されている「旧小西家住宅」。

本稿では、「旧小西家住宅」のこれまでの経緯・事実関係を掲載します。



昨年の豪雨で石垣が一部崩落 どうなる!? 旧小西家の利活用

旧診療所の駐車場跡地に建設が進む消防署。当初、この消防署の移転候補先として、旧小西家住宅は町に寄附されました。

道路の見通しが悪いことも理由の一つとし、町は令和3年度予算として本住宅の解体工事費650万円（津田耕平商店倉庫解体費含む）を計上。

しかし、貴重な景観である石垣の保存を望む声が議会に多数寄せられ、現在もそのまま残されています。



「議会だより第117号」にも特集記事掲載

720万円の設計費 本年度予算に計上

そんななか、町は720万円の補正予算（①修理工事設計図書更新費および②外構工事設計費）を議会に提出。6月会議において、これを本町議会は承認しました。

令和8年度修理着工・完成目標として町は予定しているものの、昨年度一部崩落した石垣の補修も追加が必要となり、総工費がどの程度まで膨らむのか、気がかりな工事です。

紆余曲折を経ていまに至っている旧小西家住宅について、これまでの経緯を整理しました。



第117号の
詳細はこちら



旧小西家住宅の経緯

令和3年

3月 消防署建設と道路の見直し改善を目的とし、家屋と石垣の解体工事費として650万円のR4年度予算案が町から提出。

「ギカイの窓」に石垣に関する意見が多数寄せられる。

4月 総務文教厚生常任委員会にて寄附の経緯を含め協議（傍聴者6名）。

委員会の結論は①寄附を受ける場合の取り決めが必要 ②玄武岩の石垣は重文景区域内で町の景観をなす重要な石垣のため保存すべき。

「寄附物件の取り扱い」について「要望書」を議会から町へ提出。

令和4年

5月 「石垣の魅力と保存継承」シンポジウム開催を予定するも、コロナ禍により中止。

4月 「小西邸利活用検討委員会」発足。

全4回の委員会を開催。活用方針は「伝統文化の継承・若者の創作活動・ワークショップスペース」に決定。

※工事費は委員会には示されず。

10月 保存修理工事実施設計完成。原則、文化財として修理。

R5年度着工・完成予定だったが、3箇年にわたる大規模な旧野首教会保存修理工事を優先のため、延期。

さあ、運動会だ！ 跳べ！走れ！叫べ！！



力強いソーラン節には毎年感動させられます



何点だったかな？



カ一杯頑張りました！



「我が家の永遠の推し」は会場大盛り上がり！

小学校運動会

5月25日、6年生にとっては最後の、新一年生にとっては初めての小学校運動会。少し緊張しているかな？と思いましたが、物怖じすることなく元気いっぱいがんばっていました。低学年の子をしっかりリードする6年生の姿を見て、我が子の成長を実感された保護者の皆さんも多かったのではないのでしょうか。

応援合戦、各学年の徒競走、ダンス、対抗リレーなどなど、見どころいっぱい運動会でした！ありがとうございました！

中高体育祭

5月11日、曇り空で少し肌寒さが残るなか、中高合同体育祭が行われました。

高校3年生にとっては最後の体育祭です。今までとは違った想いをそれぞれが抱えてこの日を迎えたことでしょうか。

高校生は人数が少ない分、担当する役割が増え、大忙しの日だったと思います。しかし、それは決して大規模校では味わえない貴重な経験で、きっと将来その経験が活かされるはずです。

素晴らしい体育祭でした！感動をありがとうございました！



25周年！来場者で作り上げた記念旗素敵！



裏方お疲れさま！



想いをつないでゴール！



足が速いだけでは勝てない種目！最高！

出前議会！

令和7年 4月30日～6月9日



笛吹地区（福祉センター）5名 | 笛吹在 7名 | 小浜町 1名 | 大浦 14名 | 中村 12名 | 浜津 9名 | 柳 21名 | 木場 11名 | 相津 10名
牛渡 5名 | 筒井浦 13名 | 前方後目 11名 | 唐見崎 10名 | 斑浦 12名 | 斑在 9名 | 黒島 9名 | 大島 18名 | 納島 11名 【合計 188名】

今年もたくさんのご出席・ご意見
ありがとうございました！！

●診療所関係
・常勤医師が来てくれて助かる。
・受付から受診まであまりに時間がかかりすぎる。効率化を。

●歯医者について
・新たな歯科医は探しているのか。
・歯医者は月に数回でも良いので小値賃に診療に来てほしい。

●福祉について
・子どもたちへの精神的な支援の方法を考えてほしい。
・エアコン設置は高齢者だけではなく子育て世帯にも支援してほしい。
・敬老祝い金は他の福祉的な事業に使ってほしい。
・小児科外来があるにもかかわらずゼロ歳児が検診を受けることができない。どうにかならないか。

●農漁業について
・議会だよりに農漁業などの産業活性化の記事を載せてほしい。
・農漁業対策について、もっと委員会で協議してほしい。
・釣り客が牛舎の柵をこえて侵入し、

柵を壊すなど被害が出ている。感染症のリスクもあり、対策を。
・担い手公社には指導員もいない。商品開発ではなく、担い手を増やすべきだ。
・メロンのブランド化は部会以外でも生産者がいるため、足並みを揃えるのは難しい。

●観光関係
・赤浜海岸と赤浜公園の表示がわかりにくい。
・多くの観光客は美味しい魚を食べに来ているが、提供している店が少ない。
・沖ノ神嶋神社はじめ町の神社をもっと大切に。観光にも活用を。
・SNSで町民の楽しい姿を発信して観光客を増やしてほしい。

●その他
・航路運賃高額すぎ。盆正月だけでも帰省客の運賃補助を。
・海ごみ拾い箱の設置場所増設。
・生ごみ処理機は堆肥として使用しないのか。
・イノシシが多く畑作を諦めた。

北松西高校の今後 及び ゴミ処理施設 について

北松西高校存続の危機！ 多様な学びの機会を！

インクルーシブ教育の 導入が必要だ！

【問】普通科を高いハードルと感じる子どももいる。

【答】インクルーシブ教育は文科省目標で、「障がいの有無などで別けることなく、子ども達が共に学ぶ。」だ。

障がいや特性のある子どもの数は、10年前の7倍。本町、小中学校でも、通級、2組3組など、丁寧に取り組んで頂いている。そのおかげで、子ども達が温かい地域と共に、安心して成長できている。

本町も、高校の生徒獲得に努力しているが、その前に、見逃しているものがある。障がいや特性のある子どもや親にとって、中学までは安心、あとは高校だ。

【問】今は普通科のみだが、就職にも対応し、令和6年度生徒の第一希望を100%実現した。一方、近年退学などもある。理由は様々だが、学習にハードルを感じる場合もある。

【答】インクルーシブは、北松西も入学希望者に支援が必要

メタバース学級導入を 導入しては？

【問】メタバースなら不登校や障がい、特性を持つ子どもなどに、学習機会の幅が広がる。アバターなら容姿も関係ない。画面共有し質問に答え、対面授業と同じだ。

【答】大学や企業と連携し、早く取り組めば、可能性は無制限だ。メタバース学級は、確実に生徒を増やせる。

【問】場合、県教委と検討協議し、入学後の支援を可能な限り行うと聞いた。町もできることを考える。(教育長)

【問】インクルーシブは共生社会の出発点だ。半端ではなく、北松西の魅力の一つに掲げては。

【答】県教育長が、各自治体の首長と意見交換する。その中で、今日の話しを含め意見する。(教育長)

【問】子どもの頃に別けられ、大人では共生社会と言われても、できないと思う。だからこそ、皆で同じ場所で学ぶことは大切だ。

【答】一貫教育の集大成、北松西を小値賀らしく、愛のある高校にするため、これまで以上に町が支えては。

【問】子ども自立を地域で支える社会を目指す。個人的考えだが、普通科でも地域探究を通し、生徒の関心に応じた学びを、地域の方が先生となり、その時間が、出席や単位取得になればと思う。(教育長)

【問】その対象には、小中高生の不登校約42万人も当てはまる。メタバース学級導入を検討してみても。

【答】県は遠隔での単位認定は、対面授業の支援という位置付けだ。メタバース学級とは相当の開きがあるが、県教委もメタバース活用授業の検討を始めている。まずは状況を把握する。(教育長)

小規模ゴミ処理施設 導入検討の状況は？

【問】何度も一般質問で取り上げ、少しずつ前に進み、導入まであと一歩だ。その進捗状況を伺う。

【答】昨年一年をかけ、議会と建設課で、視察や検討を行い、本町の排出量に合う能力などを考慮し、機種にめぐり立った。補助金を探し、財源を確保し、予算化を進める。

【問】処理やリサイクル、海ごみ、次世代に誇れるよう、ごみ全体の計画を策定し、大きな予算で高い補助率の補助金を選択しては。

【答】検討を進める。

【問】新上五島町への搬入契約が終われば、本町は自前で、可燃物を処理できる、という認識でよいか。

【答】ゴミ広域事業は、令和15年度までの計画だ。その後の処理は、容量的には可能な範囲だ。

【 質問を終えて 】

本町は、役場3階の議場まで階段を上げられる、おんつあんだけが、議員と執行部です。

多様性共生社会を目指すなか、それを話し合う人は、男性代表のおんつあんだけ。考え方に違いはありますが、それは、おんつあん達のなかの小さな多様性。全ておんつあん目線。

若者の皆さん！女性の皆さん！様々な視点がなければ、小値賀の未来は描けません。再来年の選挙で、議場と小値賀の未来を色とりどりに、鮮やかに変えていきましょう！



えがわ はるとも
江川 春朝議員

水道管 及び 通院患者介助の補助 について

このままでは水が危ない！ 先手先手の対策を！

更新工事何と42億円！ 水道料金の見直しは？

○小値賀町簡易水道事業アセットマネジメント（更新工事や財政の計画書）には、全ての更新に42億円必要とある。私たちが毎日のように使う洗濯機や水洗トイレは節水機能が年々高まり、かつ人口減少に伴い、本町の水道の使用量は減少傾向にある。よって、これからは水道料金収入もまた減少傾向にあると言えるだろう。

さらには、現在物価は上昇の一途をたどっており、これから迎える更新工事に備え、水道料金の見直しも必要となるのではないかと。

○今年度、水道事業の経営戦略計画を作るようになっており、その中で水道料金の見直しも出てくると思う。

八潮市のような事故が 起こる可能性はある？

○本町において、同様の事故がないと言い切れるか。

今年1月28日、埼玉県八潮市にて、水道管の老朽化が原因と見られる道路の陥没事故が発生した。

○水道管の耐用年数は40年、下水道管は50年であるが、全国各地に未更新の水道管が多く、問題山積と聞く。

○簡易水道100%、下水道85%の接続率である本町においても対岸の火事とは思えず、町民に安心して暮らして頂けるよう、町長に質問する。

○本町における水道管の最大の直径は20cm、下水管の最大の直径は35cmとなっており、八潮市のように直径4mを超えるような大規模な水道・下水道管はないので、同規模の事故の可能性は低いと考えている。

○町方が一、同様の事故が発生した場合どう対応するか。

○災害協定を締結している小値賀町建設業協会の協力を得て、公用施設等の応急復旧計画に準じた対応になる。

高齢化が進み、島外へ通院する町民が増えている。車椅子や介助なしでは船の乗り降りができない町民もあり、家族の付き添い、船会社スタッフのサポートを受けて通院している。

特に透析患者の通院は月に13〜14回になり、付き添いをする家族にも大きな負担だ。少しでも患者やその家族の負担を軽減できないかと考え、町長に質問する。

更新工事の進捗状況は？ 今のままで大丈夫？

○本町の簡易水道工事は、昭和30年代初期に始まった。その都度更新されて来たものと思うが、現在の進捗状況を伺う。

○毎年400〜500万円の予算で水道管の更新工事を実施しており、令和6年度までの進捗率は91.3%となっている。

厳しい財政状況で 介助人の補助はできない

○現状をどう思うか。

○介助を必要とする町民がいることは承知しており、日々の通院が患者ご本人やご家族の皆様にも、肉体的・精神的・経済的にも大きな負担であると認識している。

○介助人の船賃を補助する考えはあるか。

○財政的に厳しく、その考えはない。

○透析患者においては、九州商船の「島民障害者割引」が適用され、介助人の船賃がフェリー片道1900円、高速船片道2880円になるので利用して欲しい。

○介助に掛かる費用を補助する考えはあるか。

○財源確保が難しく、その考えはない。

○可能性として、今後全盲の患者が通うことも起こり得るのではないか。

○協議し、検討したい。



※ここから動画が見られます！

もりおか せいゆう
森岡 正雄議員

【 質問を終えて 】

日本の『水』は、世界一綺麗で安全です。『水』は我が国の財産と言っても過言ではありません。しかしながら、今その安全神話が崩壊しようとしています。このままでは、いつか思いもしないことが起こるのでは、と心配しています。

ある高齢ご夫婦の通院される姿を見て、これは町として何とかできないかと思いました。町長の答弁は「厳しい財政状況で補助する考えはない」とのこと。町長の苦悩は理解しつつも、補助を引き出せなかったのは忸怩たる思いです。

第一次産業への地域おこし協力隊の増員について

地域おこし協力隊制度をさらに活用して活性化を！

地域おこし協力隊制度を積極的に活用すべき！

圃地域おこし協力隊を、農業・商業の各分野で積極的に活用し、定住化を図ることが必要ではないか。

また、技術習得支援なども含め、戦略的に制度を活かすべきではないか。

圃地域おこし協力隊は地域課題の解決に有効であり、本町もその導入を進めてきた。

今後は行政主導だけでなく、民間事業者のニーズを踏まえた受け入れ体制を整備する。

募集要領や選考基準も見直し、地域の実情に合った人材確保を目指す。

個人漁師の確保は困難！

企業誘致も視野に！

圃個人漁師の担い手確保が難しい現状では、企業による養殖事業の誘致も視野に入れるべきではないか。

圃企業誘致は総合計画に位置づけており、今後も輸送コストや漁業権の調整などを含め

町の基幹産業である漁業、農業、商店街において高齢化と担い手不足が深刻化している。

圃漁業者107名のうち70歳以上が72名、メロン農家14名中10名が高齢者という現状からも、その実態は明らかである。

圃今後5～10年を見据えた生産者の増加策や商店街の活性化策について、町長に伺う。

圃て検討を進める。

圃現時点では島内法人との協議を優先し、拡大可能性を探る方針である。

圃ただし、行政は直接運営には関与せず、施設整備などを通じた支援にとどめる考えである。

農業の法人化やヘルパー制度の再導入を

圃畜産業・農業の人材確保策として、法人化の推進やヘルパー制度の再導入を検討すべきではないか。

圃法人化や省力化を通じた担い手対策は重要と認識している。

圃過去に実施したヘルパー制度についても、需要や体制を見直しながら再導入の可能性を協議する。

商店街は町の玄関口

町の印象を左右する！

圃商店街は町の玄関口であり、地域の印象を大きく左右する。

圃空き店舗の利活用やイベン

5～10年後を見据えた人材確保の対策は？

圃今後、本町はどのような対策を講じていくのか。

圃本町はこれまで、国や県の研修制度、各種支援事業、新規就業者支援などを通じて担い手確保に努めてきた。

圃今後は制度の見直しと拡充を図り、一次産業の魅力を高めることにより、若手の就業意欲を喚起する。

圃ト開催、若手・移住者の出店支援など、活性化に向けた具休策を問う。

圃チャレンジショップ制度の活用、地域通貨制度の導入、SNSを活用した情報発信などを検討している。

圃商工会や青年部、女性部など関係団体との連携を深め、中核となる人材の育成を推進する方針である。

先進事例の研究を積極的に！

積極的に！

圃平戸市など他地域の先進事例に学び、小値賀町独自のまちづくりに活かすべきではないか。

圃他自治体の好事例は参考になると考えており、今後も研究を進める。

圃なお、行政主導ではなく、地域住民や事業者が主体となる姿勢が不可欠である。

圃農業・漁業・商業を問わず、当事者の意欲を行政と共に形にしていく必要がある。

【質問を終えて】

圃人口減少に歯止めを打つ工夫を増やすべきだ。少子高齢化は問題外。そこで注目を浴びてくるのは移住者対策だ。

圃方法として①従来の町の宣伝による場合②地域おこし協力隊の増員を図ること③町の魅力度を上げることだ。

圃①は空き家の確保増加、②は小値賀町で今後力を入れる部門に投入していく人材の募集、③はキラメク小値賀、持続可能な町を目指すことで島外の人々が憧れる活気ある町、いずれにしても課題を根気強く解決していくべきだ。

※ここから動画が見られます！



こっじ りゅうじろう
小辻 隆治郎議員

北松西高校を残すために更なる努力を

高校特化型留学の検討を！ 寮と住居と仕事が必要！

小さな島でありながらも、こども園から小中高校まで存在するこの教育環境を維持することは、町の存続にもつながら重要な課題だ。

高校生に特化しては？

寮の部屋数が限られている中、現在いる留学生と同学年以上の生徒を募集し、数年後に入寮者を高校生に特化してはどうか。

◎中高生が同じ寮で生活を送ることで、北松西高への進学を意識するなどメリットはあると思う。
一方で学校生活のリズム等が異なるため、寮生のケアや運営上の課題等も出てくると思われ、今後関係者間で検討していきたい。

希望者向けのウェブサイトの必要では？

◎興味を持ってくれた生徒を留学まで誘導するため、本町全体の魅力を効果的に伝える新たなウェブサイトが必要ではないか。
◎保護者や生徒が安心感と具体的なイメージを得られるような仕組みづくりは必要であることは認識している。
新たに作らず、既存の情報

報発信手段の活用と改善を図って効果的な発信体制の強化に努めたい。

また、実際に来ていただいた自分の目で確かめ、心で感じることも重要だと考えている。

◎オープンスクールが7月にある。留学希望者にとっては高校を知る大きな機会だが町の支援や周知方法は、

◎オープンスクールの参加者に対し、一人1万円以内の補助がある。スクールの周知については把握していない。

◎町教委と高校の連携はうまくいっているのか。

◎小中高一貫教育を進める中で、各校連携しながら高校の魅力化に取り組んでいる。

新たな寮の整備も目標に！

◎先の会議において町長は新たな寮の建設という選択肢も排除しない旨を答弁された。応募者数が増えてから新たな寮の整備を検討するのは遅いのでは。

◎財政的に教育以外の喫緊の課題があり、また寮生を募集してもどのくらいの応募があるかはわからないため、現時点では新たな寮の建設は考えていない。
◎応募者が増えて受け入れ体制の抜本的な見直しが必要となった場合には、再度検討を行いたい。

孫留学の対象広げては？

◎「孫留学」の対象者は孫と三親等以内だが、四親等に広げて幅広く募集してはどうか。

◎これで既に募集が始まっているのでご理解をいただきたい。

◎この制度の最大のメリットは、確実に住むところがあること。枠を広げて希望する子どもにどんどん来ていただくことが本来のスタンスではないか。

◎来年度の募集に向けて検討の余地はあると思う。

親子留学には

仕事と住居が必要！

◎町内で不足している職種を明示するなどの対策をとり、住居は以前のように町が空き家をリノベーションしてはどうか。

◎保護者の就業機会の確保については、全力で調査を進めている。

◎住宅については、空き家バンクの運用や所有者への空き家の活用や働きかけを通じて行っている。財政的にも町が空き家の改修を行う予定はない。

◎民間がリノベーションしてそこに民衆の契約で親子が入居し、その家賃分を町が支援すると言う方法もあるのでは。
◎そのやり方はいいと思う。

模擬公聴会

私にも言わせて！

◎他所でも同様の留学が行われているので差別化が必要で、例えば「ルーツ留学」や「縁故留学」などのような留学の中身もイメージできるようなネーミングが望ましい。

【質問を終えて】

先日行われた中高合同体育祭では、北松西高生が小値賀中の生徒を支え、盛り上げている様子が見られました。

もし北松西高校がなくなってしまうと、この体育祭はどうなるのか。小さな島の中で公立の小中高校を維持することは、将来に向けて小値賀町が小値賀町として存在し続け、そのアイデンティティを保つためにも、とても重要です。

これからも議員として、この課題に対して責任をもって取り組んでいきます。



※ここから動画が見られます！

いまだみつひろ
今田 光弘議員

福祉人材の確保と持続可能な確保・定着戦略について

待ったなし！ 福祉の人手不足対策を急げ！



※ここから動画が見られます！



たていし こうすけ
立石 光助議員

福祉分野の現状と今後の対策は？

本町では高齢化の進行と生産年齢人口の減少により、福祉分野全般で深刻な人材不足が生じ、町民生活への影響が非常に懸念される。

全国の各施設が個別に人材を奪い合う現状をみると、従来型の構造では、もはや問題は解決しないのではないかと。そこで、本町における福祉の現状認識と具体的な対応を町長に伺う。

本町では高齢化の進行と生産年齢人口の減少により、福祉分野全般で深刻な人材不足が生じ、町民生活への影響が非常に懸念される。

全国の各施設が個別に人材を奪い合う現状をみると、従来型の構造では、もはや問題は解決しないのではないかと。そこで、本町における福祉の現状認識と具体的な対応を町長に伺う。

配置基準は満たしており充足率100%で離職者ゼロ。

社協では通所介護定員数25名に対し、介護福祉士が3名、生活相談員1名で、充足率は75%で不足数1名、離職者1名となっている。

昨年度開業した訪問介護事業者については、現在保健師1名と事務員1名で介護サービスを提供している。

園サービス提供への影響は。

答こども園での影響は、0歳児の募集ができないことと、1歳児と2歳児を合同クラスにしていること。

値賀の里では人手が充足しているため影響なし。

社協では、新規の利用者へのサービス利用制限やケアなどのリスク、介護報酬の減算など。

訪問介護事業者では、専門職1名のため金・土曜日のサービスに影響が出ている。

従来型の福祉モデルは、限界にきているのではないかと。

答狭い島なので一緒に考えなければならぬとも思うが、専門職ごとにどうしても縦割りにならないを得ない。

市町村独自で人材確保が難しいので、県で一括雇用して給与は派遣先が支払うことができないか県に提案しているが、返事はまだない。

最終的にはそのような政策は町としても考えたい。

福祉人材に特化した住宅整備が必要では？

園今田議員が質問したように、住宅と仕事はセットで必要だ。

福祉人材の奪い合いの現状を改善するためには、値賀の里が整備したような、福祉人材向けの住宅を新たに整備する必要があるのでは。

本町の福祉を持続可能なものにするために、あらゆる手を打っていくべきだ。

答町としては、専門分野に特化した住宅ではなく、民間主導で、新築やリノベーションした物件の整備に補助する形を考えている。

自前で建てる財源がないため、なかなか住宅の整備は難しい。

園現行の確保定着策、町内の介護事業者間の連携体制の現状および成果と課題は。

答各事業者において人材確保における認識や取り組みが異なり、また事業者の運営にも関わる問題のため、なかなか思うように人材確保ができていない。

事業者との協議の場では町単独の支援策など要望をいただいている。

従来型の福祉モデルは、限界にきているのではないかと。

答狭い島なので一緒に考えなければならぬとも思うが、専門職ごとにどうしても縦割りにならないを得ない。

市町村独自で人材確保が難しいので、県で一括雇用して給与は派遣先が支払うことができないか県に提案しているが、返事はまだない。

最終的にはそのような政策は町としても考えたい。

福祉人材に特化した住宅整備が必要では？

園今田議員が質問したように、住宅と仕事はセットで必要だ。

福祉人材の奪い合いの現状を改善するためには、値賀の里が整備したような、福祉人材向けの住宅を新たに整備する必要があるのでは。

本町の福祉を持続可能なものにするために、あらゆる手を打っていくべきだ。

答町としては、専門分野に特化した住宅ではなく、民間主導で、新築やリノベーションした物件の整備に補助する形を考えている。

自前で建てる財源がないため、なかなか住宅の整備は難しい。

従来型の福祉モデルはもう限界なのでは？

園専門職ごとに縦割りされた

多様な世代・特性の人が「ごちゃ混ぜの福祉を！」

園昔は子どもも大人も障がい者もごちゃ混ぜで、各々ができることを分担し、温もりの中でこのびのび暮らしていた。

公共施設も軒並み老朽化を迎え、施設の整理中でもある。世代や特性の垣根を越え、ひとつの拠点で一体的な支援を行う共生型サービスを導入し、地域共生社会を目指すことを、町の長期的な重要戦略として計画すべきでは。

答国県の決まったサービスの提供があるため、一緒に預かるのは難しい。

まずは交流から始めて、最

最終的にはそのような政策は町としても考えたい。

福祉人材に特化した住宅整備が必要では？

園今田議員が質問したように、住宅と仕事はセットで必要だ。

福祉人材の奪い合いの現状を改善するためには、値賀の里が整備したような、福祉人材向けの住宅を新たに整備する必要があるのでは。

本町の福祉を持続可能なものにするために、あらゆる手を打っていくべきだ。

答町としては、専門分野に特化した住宅ではなく、民間主導で、新築やリノベーションした物件の整備に補助する形を考えている。

自前で建てる財源がないため、なかなか住宅の整備は難しい。

【質問を終えて】

福祉の人材不足は本当に深刻で、そんな状況下においても本町の介護職の方は懸命に、そして誇りをもって働かれています。介護だけではなく、こども園でも未満児が受入れできない状況が続いており、本町の福祉が限界にきています。

他の自治体も人手不足で、人材の奪い合いが加速する現状では、新しい仕組みでこの崩壊をなんとかくい止める必要があると痛切に感じています。かつてのように、多世代で子育て・見守ることが子どもも大人も幸せになるはずで

模擬公聴会 私にも言わせて！

●社協の介護福祉士の正職員は来年4月からゼロになる。

デイサービスの提供が困難。

●24時間体制の施設は絶対必要。看護師は年内にゼロになる。職員補充に注力して！

過去最高記録更新!?
新たな漁場での挑戦!

小値賀町に関する「ひと・もの・こと」
を議会の目線で紹介する新企画、始動!!
記念すべき第1号は
宇久小値賀漁業協同組合の
『おおしき大敷網漁』をご紹介します!

新企画! 島の宝

おおしきあみりょう
大敷網漁とは? 魚の通り道に網を仕掛け、魚群を誘導して捕獲する定置網漁法の一つです。
特に大型の定置網を指す場合が多く、江戸時代から明治時代にかけて全国的に普及しました。



伊藤信也船長よりも大きいマグロも時折水揚げされます

8千万円の時もあった。網の破損が多かった時は、3千万円台のときもあった。

Q 昨年10月から新しくなった網で、水揚げ高はどの程度でしたか?
A 昨年10月〜3月で5千4百万円。今年の4月〜7月までで4千万円近くの見通しなので、合計約9千万円の見込み。過去最高を更新すると思う。

Q 大敷網設置場所の変更の理由を教えてください。
A 一番の理由は、海底が砂地であり、岩で網が破れないこと、そして、斑港から近いこと。場所の調査はしていたが、実際に獲れるかは、賭けに近かった。

Q 海外の方や、年齢も幅広い方々が従事されていますが、みんなで仲良くやれる秘訣は?
A 若い方から大先輩方まで働くなかで、決めてはいないが、人それぞれに合う作業、操業や沖作業など役割分担をやってる。

時化の日の操業は、普段以上にピリピリし、声を荒らげたり、キツイ言葉も出てしまうが、港に戻れば、みんなで冗談を言い合い、笑いながら作業している。

Q 今後の目標を教えてください。
A 自分自身が指示する立場にある以上、まずは自分が一番先に頑張る姿を見せなければならぬ。その気持ちを忘れず、目標はまだ一度も到達していない、1億円超えの水揚げです。

総事業費	1億7,270万円
国	7,850万円
漁協	6,476万円
町	2,944万円



今年最後の網上げ作業中の大敷のみなさん
10月からの再開に向けて網の手入れ等を実施予定

実績のない場所への漁場の変更には反対の意見もある中、自分を信じて挑戦し、成功を勝ち取った大敷網。挑戦する勇気を見習いつつ、これからも安全と大漁をお祈り申し上げます。
(江川)

新人議員紹介!

前号から始まった新シリーズ「新人じゃない議員紹介」。読者のみなさまの反応が大変気になるところですが、途中でやめるわけにはいかないので、第2弾ははじめます!
今回は小辻議員です。平成27年に議員を引退してから8年後に再挑戦、見事当選を果たした小辻議員。再選から2年が経過した現在、本町の未来のために何を考え、成し遂げようとしているのか。その胸中をうかがいました!
昔からよく知っている方もそうでない方も、ぜひ最後まで読んでみてください!



やんちゃそうな高校時代の小辻議員

議員番号五番 小辻隆治郎議員

こと、そのため町の活性化に観光産業を立ち上げたことかな。

Q 一度議員を引退されてから、再度挑戦しようと思った理由を教えてください。
A 人口減少、高齢化が進むなかで持続可能な小値賀町をどう築き上げていくか。

教育、各産業を通して町が大きな飛躍を遂げるには、どう改善していくべきか。
このままでは、また合併問題が出てくるのではないか。何か実行して形を作っていくか。いけない、議員としてのやり残しがある、と判断し立候補しました。

Q 最後に、今後の議員活動について目標や抱負を。
A そのやり残しを議員在籍中に、せめて目鼻がつく程度まで進めていきたいと考えています。

ありがとうございます!

Q まずは自己紹介を。
A 西海市大瀬戸町生まれ。5歳の頃、テグリ漁の盛んな小値賀に家族で移住し父が石油店を開業。4人兄弟の長男として小学生時代を小値賀で過ごしました。

Q どのような子どもでしたか?
A あまり目立たない大人しい子どもでした。中高を京都、大学を東京で学び、放浪癖がありフラフラしていました(笑)。
今思うと、小値賀を離れてはじめて、郷土愛を感じるように

なった気がします。小値賀に帰ってきたのが25歳の頃で、家の石油店を継ぎましたが、運動公園・畑総事業などで公共事業が盛んで、これ以上なく忙しい日々でした。

Q はじめて議員を志したきっかけを教えてください。
A 54歳当時、平成の大合併という日本中を吹き荒れた大旋風の中、「島の独立は辛抱すれば維持できる」との意見に賛同し、議員に立候補しました。

Q 見事初当選、その後何期務めましたか?
A 続けて3期。この間、まちづくりで没頭し、当時の観光協会の改革を試み「アイランドツーリズム協会」を立ち上げ、さらに「まちづくり公社」の設立等に携わりました。

Q 小値賀の観光に大きな貢献をされていますね。3期つとめた議員としての最大の成果は何でしょうか?
A やはり、賛否あるかも知れませんが合併しないと決断した

みんなの意見箱

設置場所変更しました！



記入用紙は何でもOK！

この意見箱は小値賀町議会が設置したもので、みなさんの町政に関するご意見を広くお聞きし、それをもとに政策を立案、執行機関への提案を行うことで、住民の福祉を増進させることを目的としています。

※町が所管していないことに関するもの、公共の福祉に反するもの、議員及び小値賀町職員に対する苦情は、意見としては取り扱わず、議会事務局で保管します。
※定期的に議会事務局職員が回収し、ご意見の内容は議員全員で確認します。

3ヶ所
設置！



図書館入口



ターミナル入口



役場玄関

小値賀町議会
Facebook



小値賀町議会
YouTube



『ギカイの窓』も開いています！

電話 0959-56-3111 役場内議会事務局
メール gikaisodan@town.ojika.lg.jp

編集後記

広報常任委員会の新米委員長です！昨年度までの副委員長席から、一つ席を移動しただけに、見える景色と責任の重さは大違いで、日々奮闘しております。

「この見出しで興味を持ってもらえるかな？」「難しい議会の言葉を、どうすれば分かりやすく伝わるだろう？」など、委員一同でああでもないこうでもないと思いを絞りました。慣れない編集作業に四苦八苦する私を頼もしい委員の皆さんが支えてくれて、何とか完成にこぎ着けました。

私たちの奮闘の跡が詰まったこの議会だよりで、少しでも議会を身近に感じていただければ幸いです。次号までにはもう少しスマートに編集できるようになっている…はずですので、どうぞ温かく見守ってください！

委員長 立石光助